

第37回定期本部委員会開催 2024春季生活闘争方針を満場一致で決定！



2024春季生活闘争勝利に向けて 一丸となって闘い抜くことを確認！



進行に 小林議長 円滑な議論を 努めた

JR四国労組は2月9日(金)、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」にて第37回定期本部委員会を開催。四国各地から本部委員及び特別本部委員、傍聴者、来賓等を含め約100名が出席した。本委員会は冒頭、「令和6年能登半島地震」に亡くなられた方々へ黙祷を捧げた後、中野副委員長の開会挨拶で始まった。委員会議長に小林本部委員(徳島支部)を選出し、大谷執行委員長挨拶の後、来賓として出席された連合香川・福家会長、四国交通労協・砂田議長、JR連合・相良組織局長の挨拶を受け、議事に入った。議事では、執行部より経過報告、「安全・安定・安心輸送の確立」「2024春季生活闘争」「政策課題解決」「組織強化」をはじめとする当面の活動方針を提起した。本部委員・特別本部委員計11名より発言があり、執行部答弁・書記長総括答弁を行い、方針をより骨太なものとした。2024春季生活闘争方針をはじめとする全ての議案は満場一致で採択。藤岡本部青年女性会議議長より提起を受けた委員会宣言案について承認した後、活動方針の実践を組合員一丸となって奮闘すべく、大谷執行委員長の団結カンパニーで本委員会を締めくくった。



◆来賓の皆様(順不同)

連合香川 福家 良一 会長

四国交通労協 砂田 篤志 議長

JR連合 相良 夏樹 組織局長

◆祝電・メッセージ(順不同) JR北海道労働組合 ジェイアール・イーストユニオン 東海旅客鉄道労働組合 西日本旅客鉄道労働組合 九州旅客鉄道労働組合 日本貨物鉄道産業界労働組合

◆大谷執行委員長 挨拶(要旨)



3年以上続いたコロナ禍は新たな局面を迎え、JR四国グループにおいても、2023年度末に置ける連結・単体決算について、最終利益が4期ぶりに黒字となる見通しが明らかになった。人流回復、支援策の活用等もあるが、組合員各位の日々の努力、会社施策への協力の賜物であることは言うまでもない。一方で、目下「人財

確保」が最大の経営課題であり、労使で強い危機感を共有しなければならぬ。人財難による、安全の確保にもとより、業務運営にも支障を来しかねない懸念を払拭し、将来に亘って安全で健全な企業グループであり続けられるよう、「ユニオンビジョン2023」を最大限活用し、「ありたい姿」と現実とのギャップを埋めるべく、一つずつ丁寧に課題を解決していく。

◆安全・安定・安心輸送の確立について

「安全の確立」はJR四国労組運動の最重要課題であり、チェック・提言機能を活かした取り組みを展開してきた。しかしながら、重機転落による建築限界支障、運搬台車と走行中の列車との衝突事象に加え、車両点検中に補機駆動軸に巻き込まれる傷害事故が発生。相次ぐ離職により一人あたりの業務負担が増加し、「安全の教育・醸成・継承」に悪影響を及ぼすことを強く危惧する。会社は、事故の再発防止に向け、「慢性的な要員不足・離職増加からくる安全の危機」を改めて強く認識する必要がある。引き続き「安全の確立」を第一義に、誰もが安心して働き続けられる環境整備、要員不足への対応、コミュニケーションの充実を念頭に置いて取り組む。

◆2024春季生活闘争について

人財の確保・定着と離職防止、安定した事業運営にむけ「継続的な人財への投資」を求め、「未来(より)春闘」として、定期昇給完全実施と「ベア1万円」の獲得、制度改善を実現すべく、「ユニオンビジョン2023」を活用しながら交渉に臨む。私たちが生み出す価値やサービスは地域を支える重要なものである。それを支える人財は必要不可欠。しかしながらJR四国グループでは、離職に伴う慢性的な要員不足の状況下で、矢継ぎ早に効率化施策が実施され、労働力が業務量に追いついていない状況とスパイラルを断ち切るべく、労働条件・就労環境整備

備に取り組みかねば、手遅れともなりかねない。西牧社長が呼びかける「ATM(明るく楽しく前向き)」をグループ会社含め、皆で実感できるよう、「継続的な人財への投資」を強く意識したメッセージを発信するよう求める。

◆組織強化・政策課題解決 実現に向けた取り組みについて

労働組合における主体は組合員一人ひとりであり、分業こそが組織の礎となる。職権・職場を超え、笑顔が見られる機会を創出できるよう、各級機関の活動を積極的に活用し、離職防止・組織強化に繋げる認識を共有したい。政策課題については、「改正地域交通法」が施行され、今後ローカル線を巡る自治体との協議も活発になること

が想定される。また、バス、物流・建設部門に関わる「2024年問題」についても、自動車支部や協力会社の影響を受けうることも考慮し、JR連合や交通労働組合と連携を強化し、JR産業の魅力向上に資する政策活動を展開していく。「人」が支えるJR四国グループという企業体を、明るい将来展望を描き、持続的に成長させていかなければならない。今年、AKAMATSU RNE開業や、松山駅立体高架事業が大きく進展する一年。将来的な四国新幹線の実現に向けても労働組合から「明るく楽しく前向き」なるよう皆で実践していこう！

質疑

自動車支部

岡本本部委員



本社支部

池田本部委員



◆本社において、十分な体制がない中で、若年組合員が責任を持つよう

うな業務を遂行し、離職・休職といった結果を招いているケースがある。背景には要員の少なさがあると考えられる。DXの活用や業務内容の検証も必要だが、単に人数を減らすことのみを考えると、各系統間での人事交流を行うことも一案ではないか。工務系統に配属されると、他の系統に進むことができないという話も聞くため、社内公募制度などの導入も検討されたい。また、総合職入社社員には、複数の系統で業務に就くことで、本社でも多角的な視点に立つた業務運営が可能になるのではないかと。労働者には、「ユニオンビジョン2023」を用い議論していると聞く。転勤時に費用負担が感じられることや本社の業務過多を理由に敬遠される声も聞かれている。キャリアアップの明確化や風通しの良い職場作りの観点からも引き続き議論を深化するとともに、費用負担のあり方や、期間を設けて転勤を留める制度など、異動に対する懸念感の払拭に向け、踏み込んだ議論を要請する。

◆本社春闘に対する組合員の期待感が高い。物価高への影響はもとより、頑張った日々の業務に取り組み組員のモチベーション維持・向上を通じ、離職を止めるため、昨春闘でのべア獲得、夏季手当・年末手当の上積みについて「連続性のある人への投資」を是非ともお願いする。

◆JR四国を退職後に再度入社しようとした場合、現状の制度では特別な理由がある場合に限り、退職時の等級などが引き継がれるが、ハードルを下げる観点から理由の限定を削除してもよいのではないかと。◆契約社員車掌が社員登用試験を受ける際、乗車証や購入券が無いため、通常の運賃料金を捻出して高松で受験している。JR四国で働く意欲、培

た知識をJR四国で活かす観点から各県での試験開催や、乗車証・代用証の発行等受験者の負担軽減をお願いする。◆土讃線では空転滑走事象が多く、土佐岩原駅にて停車ブレーキ時に滑走し、停止位置を過ぎ過ぎる事象が発生した。また、滑走による車輪フラットも見られ、騒音・レール負担・乗り心地への影響もあつた。鉄道総研との共同研究でクエン酸散布の実験を行っているが、どのよう状況か。◆多ノ郷駅で積雪による輸送障害が発生した。管轄の要員が限られる中で、電気融雪器の導入等を求める。要員が足りない部分にこそ必要な器材を導入し、負担軽減に繋げるべきと考える。

高知支部

長吉本部委員



◆営業・運輸・工務系統を問わず要員が不足

◆JR四国を退職後に再度入社しようとした場合、現状の制度では特別な理由がある場合に限り、退職時の等級などが引き継がれるが、ハードルを下げる観点から理由の限定を削除してもよいのではないかと。◆契約社員車掌が社員登用試験を受ける際、乗車証や購入券が無いため、通常の運賃料金を捻出して高松で受験している。JR四国で働く意欲、培

◆JR四国を退職後に再度入社しようとした場合、現状の制度では特別な理由がある場合に限り、退職時の等級などが引き継がれるが、ハードルを下げる観点から理由の限定を削除してもよいのではないかと。◆契約社員車掌が社員登用試験を受ける際、乗車証や購入券が無いため、通常の運賃料金を捻出して高松で受験している。JR四国で働く意欲、培

◆JR四国を退職後に再度入社しようとした場合、現状の制度では特別な理由がある場合に限り、退職時の等級などが引き継がれるが、ハードルを下げる観点から理由の限定を削除してもよいのではないかと。◆契約社員車掌が社員登用試験を受ける際、乗車証や購入券が無いため、通常の運賃料金を捻出して高松で受験している。JR四国で働く意欲、培

◆JR四国を退職後に再度入社しようとした場合、現状の制度では特別な理由がある場合に限り、退職時の等級などが引き継がれるが、ハードルを下げる観点から理由の限定を削除してもよいのではないかと。◆契約社員車掌が社員登用試験を受ける際、乗車証や購入券が無いため、通常の運賃料金を捻出して高松で受験している。JR四国で働く意欲、培

徳島支部

笹原本部委員



◆年末手当交渉は、鉄道運輸収入が戻り切っていない中で交渉となった。0・22カ月の積み込み、1・65カ月の積み込み。総合労働協約改訂においても、以前から強く要望していた大型動物処理に對する報労金や、年間休日数の増加等多くの制度を勝ち取るなど御礼申し上げる。

◆「ユニオンビジョン2023」に掲げようとして、JR四国グループが社会的使命を果たすために、人財の確保が必須。春闘における引き続きの賃金引き上げを要請する。あわせて、現在、体力の観点から離職に至るエキスパイト組員について、日給や時給単位で働くこ

◆「ユニオンビジョン2023」に掲げようとして、JR四国グループが社会的使命を果たすために、人財の確保が必須。春闘における引き続きの賃金引き上げを要請する。あわせて、現在、体力の観点から離職に至るエキスパイト組員について、日給や時給単位で働くこ

◆「ユニオンビジョン2023」に掲げようとして、JR四国グループが社会的使命を果たすために、人財の確保が必須。春闘における引き続きの賃金引き上げを要請する。あわせて、現在、体力の観点から離職に至るエキスパイト組員について、日給や時給単位で働くこ

愛媛支部

薦田本部委員



◆離職が続き、一人当たりの業務量増加、年休が取得できないなど、組合員は疲弊している。労使間で意見交換があつたと聞かす、今いる仲間を手放さず、また新しい人財の確保に努めていただきたい。特に配属について、家族との時間を確保できる等、組合員に寄り添うことができれば、面談強化等訴えられたい。◆コロナ禍だけでなく、物価高騰・要員不足等取り巻く環境が厳しい中、組合員が継続できているのは組合員の頑張りによる。その観点から春闘は極めて重要であり、

◆離職が続き、一人当たりの業務量増加、年休が取得できないなど、組合員は疲弊している。労使間で意見交換があつたと聞かす、今いる仲間を手放さず、また新しい人財の確保に努めていただきたい。特に配属について、家族との時間を確保できる等、組合員に寄り添うことができれば、面談強化等訴えられたい。◆コロナ禍だけでなく、物価高騰・要員不足等取り巻く環境が厳しい中、組合員が継続できているのは組合員の頑張りによる。その観点から春闘は極めて重要であり、

◆離職が続き、一人当たりの業務量増加、年休が取得できないなど、組合員は疲弊している。労使間で意見交換があつたと聞かす、今いる仲間を手放さず、また新しい人財の確保に努めていただきたい。特に配属について、家族との時間を確保できる等、組合員に寄り添うことができれば、面談強化等訴えられたい。◆コロナ禍だけでなく、物価高騰・要員不足等取り巻く環境が厳しい中、組合員が継続できているのは組合員の頑張りによる。その観点から春闘は極めて重要であり、

◆離職が続き、一人当たりの業務量増加、年休が取得できないなど、組合員は疲弊している。労使間で意見交換があつたと聞かす、今いる仲間を手放さず、また新しい人財の確保に努めていただきたい。特に配属について、家族との時間を確保できる等、組合員に寄り添うことができれば、面談強化等訴えられたい。◆コロナ禍だけでなく、物価高騰・要員不足等取り巻く環境が厳しい中、組合員が継続できているのは組合員の頑張りによる。その観点から春闘は極めて重要であり、

香川支部

大西本部委員



◆離職が相次ぎ、業務運営が限界を迎えるなか、人への投資は必須。人事賃金制度の見直しについて、会社は2025年度を一つの目標に示したが、組合員が将来に対する希望を描くことのできるよう、55才以降の基本給支給率や、第2基本給の見直し等具体的な道筋を示すことが重要。国の目を意識することなく、人への投資をしっかりと行うよう、会社に訴えたい。◆連結決算においてホテル・バス事業の業績回復が大きかったこともふまえ、本体の交渉結果をしっかりとグループ労組にも波及させ、一体となって取り組むべき。◆「未来づくりに春闘」として組合の求心力を高めるためにも、今まで以上に結果にこだ

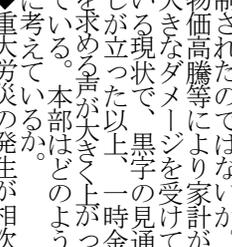
◆離職が相次ぎ、業務運営が限界を迎えるなか、人への投資は必須。人事賃金制度の見直しについて、会社は2025年度を一つの目標に示したが、組合員が将来に対する希望を描くことのできるよう、55才以降の基本給支給率や、第2基本給の見直し等具体的な道筋を示すことが重要。国の目を意識することなく、人への投資をしっかりと行うよう、会社に訴えたい。◆連結決算においてホテル・バス事業の業績回復が大きかったこともふまえ、本体の交渉結果をしっかりとグループ労組にも波及させ、一体となって取り組むべき。◆「未来づくりに春闘」として組合の求心力を高めるためにも、今まで以上に結果にこだ

◆離職が相次ぎ、業務運営が限界を迎えるなか、人への投資は必須。人事賃金制度の見直しについて、会社は2025年度を一つの目標に示したが、組合員が将来に対する希望を描くことのできるよう、55才以降の基本給支給率や、第2基本給の見直し等具体的な道筋を示すことが重要。国の目を意識することなく、人への投資をしっかりと行うよう、会社に訴えたい。◆連結決算においてホテル・バス事業の業績回復が大きかったこともふまえ、本体の交渉結果をしっかりとグループ労組にも波及させ、一体となって取り組むべき。◆「未来づくりに春闘」として組合の求心力を高めるためにも、今まで以上に結果にこだ

◆離職が相次ぎ、業務運営が限界を迎えるなか、人への投資は必須。人事賃金制度の見直しについて、会社は2025年度を一つの目標に示したが、組合員が将来に対する希望を描くことのできるよう、55才以降の基本給支給率や、第2基本給の見直し等具体的な道筋を示すことが重要。国の目を意識することなく、人への投資をしっかりと行うよう、会社に訴えたい。◆連結決算においてホテル・バス事業の業績回復が大きかったこともふまえ、本体の交渉結果をしっかりとグループ労組にも波及させ、一体となって取り組むべき。◆「未来づくりに春闘」として組合の求心力を高めるためにも、今まで以上に結果にこだ

青年女性会議

青年女性会議



◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

事業開発部会

中谷特別本部委員



◆現在、JR四国には課魅力が多いが、よりよい会社に生まれ変わるチャンスとも考えられる。「TAKAMATSU ORN」開業や、松山駅の高架化などの明るい話題を起爆剤に、四国新幹線の実現等に向けて、これら30・40年勤務する我々若年女性会議世代の組合員が不安なく、やり甲斐をもって働ける会社となるよう引き続き、各種交渉、活動等取り組みをお願いする。

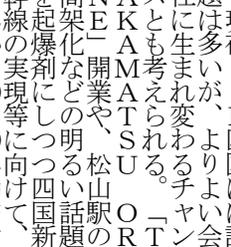
◆現在、JR四国には課魅力が多いが、よりよい会社に生まれ変わるチャンスとも考えられる。「TAKAMATSU ORN」開業や、松山駅の高架化などの明るい話題を起爆剤に、四国新幹線の実現等に向けて、これら30・40年勤務する我々若年女性会議世代の組合員が不安なく、やり甲斐をもって働ける会社となるよう引き続き、各種交渉、活動等取り組みをお願いする。

◆現在、JR四国には課魅力が多いが、よりよい会社に生まれ変わるチャンスとも考えられる。「TAKAMATSU ORN」開業や、松山駅の高架化などの明るい話題を起爆剤に、四国新幹線の実現等に向けて、これら30・40年勤務する我々若年女性会議世代の組合員が不安なく、やり甲斐をもって働ける会社となるよう引き続き、各種交渉、活動等取り組みをお願いする。

◆現在、JR四国には課魅力が多いが、よりよい会社に生まれ変わるチャンスとも考えられる。「TAKAMATSU ORN」開業や、松山駅の高架化などの明るい話題を起爆剤に、四国新幹線の実現等に向けて、これら30・40年勤務する我々若年女性会議世代の組合員が不安なく、やり甲斐をもって働ける会社となるよう引き続き、各種交渉、活動等取り組みをお願いする。

工務部会

中田特別本部委員



◆列車見張り員は人命と鉄道の安全運行を支えるため、重要な役割を担っているが、運行状況の確認は全て人間の注意力に頼っているのが現実。入社間もない社員が見張り業務に従事することが増えており、精神的な負担は計り知れない。補助手段として列車接近警報装置の開発・導入を要請するとともに、使いやすいシステムとなるよう、前記に設計・使用方法等について組合員の意見を確保されたい。また、触車事故防止ルールについて過去の教訓の上になり立っているが、ルールそのものが複雑・曖昧な上に実態とそぐわない部分がある。事故のほとんどが、基本ルールの逸脱によって発生する中、「守れない」「守りづらい」ルールを「守り」と守ることのできる「ルール」とすべく抜本的な見直しを検討すべきと考

◆列車見張り員は人命と鉄道の安全運行を支えるため、重要な役割を担っているが、運行状況の確認は全て人間の注意力に頼っているのが現実。入社間もない社員が見張り業務に従事することが増えており、精神的な負担は計り知れない。補助手段として列車接近警報装置の開発・導入を要請するとともに、使いやすいシステムとなるよう、前記に設計・使用方法等について組合員の意見を確保されたい。また、触車事故防止ルールについて過去の教訓の上になり立っているが、ルールそのものが複雑・曖昧な上に実態とそぐわない部分がある。事故のほとんどが、基本ルールの逸脱によって発生する中、「守れない」「守りづらい」ルールを「守り」と守ることのできる「ルール」とすべく抜本的な見直しを検討すべきと考

◆列車見張り員は人命と鉄道の安全運行を支えるため、重要な役割を担っているが、運行状況の確認は全て人間の注意力に頼っているのが現実。入社間もない社員が見張り業務に従事することが増えており、精神的な負担は計り知れない。補助手段として列車接近警報装置の開発・導入を要請するとともに、使いやすいシステムとなるよう、前記に設計・使用方法等について組合員の意見を確保されたい。また、触車事故防止ルールについて過去の教訓の上になり立っているが、ルールそのものが複雑・曖昧な上に実態とそぐわない部分がある。事故のほとんどが、基本ルールの逸脱によって発生する中、「守れない」「守りづらい」ルールを「守り」と守ることのできる「ルール」とすべく抜本的な見直しを検討すべきと考

◆列車見張り員は人命と鉄道の安全運行を支えるため、重要な役割を担っているが、運行状況の確認は全て人間の注意力に頼っているのが現実。入社間もない社員が見張り業務に従事することが増えており、精神的な負担は計り知れない。補助手段として列車接近警報装置の開発・導入を要請するとともに、使いやすいシステムとなるよう、前記に設計・使用方法等について組合員の意見を確保されたい。また、触車事故防止ルールについて過去の教訓の上になり立っているが、ルールそのものが複雑・曖昧な上に実態とそぐわない部分がある。事故のほとんどが、基本ルールの逸脱によって発生する中、「守れない」「守りづらい」ルールを「守り」と守ることのできる「ルール」とすべく抜本的な見直しを検討すべきと考

工務部会

中田特別本部委員



◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

◆若年・中堅層の離職が深刻。近年の離職が増加しており、さらなる離職を懸念する。要員の確保が最善の解決策と考えるが、採用状況等が要員不足に迫っている。賃金は最大の労働条件としての考えのもと、一人への投資が重要。本春闘において、確実にベースアップの獲得をお願いする。あわせて、要員不足により若年組合員が責任度の高い仕事に従事する場面が増え、事故の発生に遭遇するリスクのものが高まっているため、その責任度合いに見合う手当の新設をお願いする。◆組合から諸制度の改善等を発信する一方で、会社からの情報発信が不十分。「離職に対する考え方が見えない」とい

を目指したいと思えるように、管理者に対する手当の増額、職務手当や技能手当の併給や緊急呼出手当増額、支給要件緩和、本社手当の拡充をお願いする。

運輸部会

中川特別本部委員



◆列車本数が減る中、拘束時間が拡大している。要員不足に伴い、超勤勤務も増加し、自宅が遠方の組合員は、5日間家に帰ることなく乗務しているケースが常態化している。加えて、信用降車型ワンマン車増加、特急宇海線ワンマン運転導入など作業も増加、複雑化している。導入、瀬戸大橋三角ルートの活用、勤務時間の改善、4日行路・ダブル行路の廃止、ワンマン手当の増額などの申し入れをお願いする。

促進し、携行品の軽量化を推進されたい。働きやすいうる環境整備が、和島・徳島での受け入れなどのハード面を整備する。また、女性内勤者育成にも、女性日交代勤務の見直し等制度面の整備について、運輸課では「現場に必要と十分なままた必要としない」と把握ができていない。一人あたりの業務量が過大である。根拠的な業務量の見直しは急務である。早急に改善すべきである。運輸課と現場の要員需給は表裏一体で行うためにも、今後に留まらぬよう、人財確保の観点から、労働環境の改善と基本給の大幅な増額をお願いする。

営業部会

上川特別本部委員



◆労働力人口が減少する中、同業他社や同一

地域の企業との採用競争に負けることがないよう、積極的な人への投資が必要であるため、引き続き会社に訴えられたい。◆営業部会は若年組合員が多くなり、近年の離職状況が危惧されている。他の産業と比較して、JRの年齢層が若年層及び高年齢層に偏っている。年齢層が比較的低位にあることから、若年層に力を入れる。ベータ目標金に到達し、必達目標金に到達するよう交渉に臨みたい。

答弁



武智副執行委員長

◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。

◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。

◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。

◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。◆賞与水準が若年層に与える影響は大きい。賞与の水準は、生活設計が立てられ、投資を継続するよう取り組まれたい。

中野副執行委員長



◆空転滑走防止について、経営協議会等で、採り入れたい。◆空転滑走防止について、経営協議会等で、採り入れたい。

中村書記長



◆高速バスにおいて、収益確保に非常な重要性がある。◆高速バスにおいて、収益確保に非常な重要性がある。

た意味合いをしつかりと訴えるなど、今までの異なる取り組みを展開し、一時金獲得に繋げる。人事賃金制度の見直しについて、今働いている組合員が、今後どうなっていくのか、早く示すことが重要。本春闘で一気に解決するものではないかも知れないが、1日でも早く具体的な内容を示すことができれば、取り組む。▽今回こくみん共済のマイカー共済が3割引となった。世話役活動

を行うにあたり、共済のメリットも活用しながら、裾野を広げてほしい。また、来年から総合共済のこくみん共済への移行を行うが、引き続き月1000円の掛け金でセーフティネットとして活用していくので、協力をお願いする。▽管理者は休日においても、常に携帯電話を所持するなど、いわゆる拘束状態に置かれていない状況。持続的に務められるのか疑問に感じ、また離職の

一因となつていて、危険を伴う。鉄道の特性、いえるまでもだが、如何にしてこの負担を軽くするのか、真剣に向き合う必要がある。当番制なども一例だが、結局は人がおらず、打つ手が無いのが、現状。会社にもっと現場に足を運んで現実を把握すべきと伝えているところ。本春闘においては、「人がいない状況」を打破すべく、一つ一つ議論を積み重ね、スピード感をもって問題解決に取り組む。

▽今後の収縮拡大に向け、新規事業の展開は必須となるが、従前の社内の方針と比較するのではなく、競合相手と比較してスムーズに業務執行できるかが重要。グループ会社を含めた体制づくりを考案する必要がある、会社と協議していく。

▽会社から従業員へ情報共有されることも、組合内でも情報共有される必要がある。先般の勉強会においては、会社の考え方から各職場で展開されている点について、申し入れたところ、会社も危機感を持ったうえで必要な検討を実施しているということ。▽組合も新聞・ニュース・SNS等で情報展開に取り組んでおり、支部や分党内でも引き続き積極的に活用していきたい。一方で、青年女性会議を中心とした世代に別途有

効なツールがあれば、まずは青女の中で積極的に取り組み、事例を展開していただきたい。▽四国新幹線の進捗について、4県の知事が岡山ルートに意志統一して、8月に国に要請を行った。その他、骨太の方針に基づき注視いただきたい。

本計画路線の調査が掲載されたり、国の検討会の中で、鉄道事業の費用対効果の指標の再評価等検討を行っているところ。いずれにしても人口減少局面において、交流人口拡大は重要であり、引き続き注視いただきたい。

労働、ジェイアール四国メンテナンクス労組、四国キヨスク労組、JR四国ホテルズユニオン、四万十の宿労組及びJR四国ステーション開発労組の代表者など約100名が参加。議長に、柏木副議長（JR四国ホテルズユニオン執行委員長）を選出した後、来賓のJR連合の石川産業政策局長（JR四国労組より派遣）から、「2024春闘生活闘争方針」の説明を受けた。

事務局より四国地協における具体的な春闘方針を提起。出席者からは、各単組における「2024春闘生活闘争勝利」に向けた決意表明や、人財確保の観点から純ベア・善悪を求めるとの発言があり、執行部より力強く交渉を展開する旨の答弁が行われた。各方針について、満場一致で採択された後、大谷議長の団結ガムバローで集会を終了した。

中村書記長 挨拶答弁(要旨)



本日参集の皆様、日頃からのJR四国労組運動へのご理解とご参加に改めて感謝申し上げます。

先般、JR連合の中央委員会が高松で開催されたが、組織規模の大小を問わず、それぞれの組織の中で論点を絞って発言していただいた。本日発言いただいた意見についても、同様に各組織内で議論がなされ集約した内容を受け止めて、今後の協議に活用していく。

JR四国グループにおいでも黒字決算の見込みがなされるなど、ようやく明るいましが見えてきた。このコロナ禍は、本当に苦しく、大変であり、我慢を重ねた時期であった。まさにこれが皆様の本当の声であり、その労苦に報いる改善を求めていく必要があることを本日、改めて強く感じ

た。私たちが生み出す価値は地域、社会にとつて、非常に重要なものであり、こうした働きに対して賃金をはじめとした対価が伴い然るべきと考える。ここ数年、離職が増加し、採用も苦戦するなど、要員確保がより深刻な状況となつていいる。少ない要員で黒字が達成されたことは「無理を強いられた結果」であるとも受け止める。適正な要員確保と働きの価値に見合った賃金水準や労働環境を早急に整備するよう求めていかなければならない。改めて、真に持続可能なJR四国グループを作るためには「ユニオンビジョン2023」でも強調したとおり、「人財」が何よりも重要と考える。

2024春闘生活闘争 について

産別方針に従い、定期昇給の完全実施を前に、ベア1万円を掲げ、交渉に臨む。数字に対する印象はそれぞれあると思われるが、物価高騰への対応、働きの価値に見合った賃金水準の達成、そして人財確保に向けて確かな成果を勝ち取っていく必要がある。JR四国では黒字見通しとなり、ジェイアール四国バスについても堅調に推移するなど、条件は整っている。加えて、人財確保・定着の観点から各種改善を図らねば、業務運営に支障をきたす恐れがある。この前まで迫ってきたが、要員不足の中、参加者を募ることが憚られるなど、役員の皆様には苦心しながらも尽力いただき、感謝申し上げる。しかしながら、この取り組みこそが職場を改善し、離職防止、採用競争力強化に繋がっていくものである。組合役員だけでなく、組合員一人ひとりが「つながり」「人と人との輪」を作り上げられるよう、引き続き対話を重視し、「全員参加」の組合活動を展開し、諸課題解決を果たしていこう。

政策課題解決と政治活動の取り組みについて

昨年の参院院補欠選挙において広田一氏が当選を果たした。徳島県協・高知県協をはじめとする関係各位の尽力の結果であり、御礼申し上げる。「ユニオンビジョン2023」にある「働く者にとって誇りを持つる企業グループ」実現に向けては、四国新幹線をはじめとする政策課題解決がその必要条件である。選挙での当選はあくまで通過点であり、真の目的は私たちの求める政策の実現にある。こうした取り組みは労働組合の活動なくして展開できない。コロナ禍で失われた対話を取り戻すべく活動いただいているが、要員不足の中、参加者を募ることが憚られるなど、役員の皆様には苦心しながらも尽力いただき、感謝申し上げる。しかしながら、この取り組みこそが職場を改善し、離職防止、採用競争力強化に繋がっていくものである。組合役員だけでなく、組合員一人ひとりが「つながり」「人と人との輪」を作り上げられるよう、引き続き対話を重視し、「全員参加」の組合活動を展開し、諸課題解決を果たしていこう。

安全・安定・安心輸送の確立について

私たちは「当たり前」の安全を確保し、健康に働く環境を整備されているかどうか。労働組合として、このチェック・提言機能の果たすべく本部としての取り組みを強化していく。あわせて働く立場からいえること、実態を踏まえた意見をしっかりと吸い上げられよう。改めて皆様の理解・協力を要請する。

も重要となつてくるが、その前提として、プロとしての意識、矜持を強く持ち、安全最優先の行動をお願いする。一方で、要員不足はあらゆる職場で悪化している。これまでの総括答弁の場でも「JR」と申し上げてきたが、適正な要員や業務量が維持されない中、進捗だけが求められるのであれば、働く側から問題提起をして発信する必要がある。経営協議会の場では、下期の予算執行が本場に可能なか、高架事業について、工期を重視するあまり、過度な負担がかかることのないよう進められているか、議論を尽くしてきている。見直すべきところは見直し、効率化するに越したことはないが、最も大事なのは安全を守り、健康的に働く環境を整備されているかどうか。労働組合として、このチェック・提言機能の果たすべく本部としての取り組みを強化していく。あわせて働く立場からいえること、実態を踏まえた意見をしっかりと吸い上げられよう。改めて皆様の理解・協力を要請する。

産別方針に従い、定期昇給の完全実施を前に、ベア1万円を掲げ、交渉に臨む。数字に対する印象はそれぞれあると思われるが、物価高騰への対応、働きの価値に見合った賃金水準の達成、そして人財確保に向けて確かな成果を勝ち取っていく必要がある。JR四国では黒字見通しとなり、ジェイアール四国バスについても堅調に推移するなど、条件は整っている。加えて、人財確保・定着の観点から各種改善を図らねば、業務運営に支障をきたす恐れがある。この前まで迫ってきたが、要員不足の中、参加者を募ることが憚られるなど、役員の皆様には苦心しながらも尽力いただき、感謝申し上げる。しかしながら、この取り組みこそが職場を改善し、離職防止、採用競争力強化に繋がっていくものである。組合役員だけでなく、組合員一人ひとりが「つながり」「人と人との輪」を作り上げられるよう、引き続き対話を重視し、「全員参加」の組合活動を展開し、諸課題解決を果たしていこう。

「安全の確保・安全最優先」「2024春闘生活闘争」組織強化・政策課題実現に向けた取り組みの3点について所信を述べた。

議長には今井委員長（JR四国労組愛媛県協）を選出。議事では、執行部より2022年度の活動報告と2023年度の活動方針（案）を提案し、すべての議案が満場一致で採択された。

春闘勝利を目指して団結ガムバロー！

定期委員会終了後は「交運共済説明会」を実施。交運共済の本田専務理事から、2025年度4月より改定される総合共済の取扱いならびにマイカー共済について説明を受けた。その後開催された春闘討論集会では、JR四国

ローガンのもと、当面の活動方針を真摯な討議を経て、満場一致で決定した。

冒頭、開催地を代表して大谷副会長（JR四国労組執行委員長）から連帯と歓迎の挨拶を行った。続いて主催者を代表して壇上に立ったJR連合の萩山会長は、「労働集約型のJR産業は離職の増加に苦んでいる。人財の確保、安心して意欲高く働くことのできる環境を造りあげ、魅力ある産業構築に向けJR産業で働く仲間をJR連合のもとに集結させ、健全な労働関係を通じ、社会的責任を果たすことが求められる」と決意を述べた。

春闘に対する決意を述べた中野中央委員(右)と柏木特別中央委員(左)

春闘勝利を目指して団結ガムバロー！

定期委員会終了後は「交運共済説明会」を実施。交運共済の本田専務理事から、2025年度4月より改定される総合共済の取扱いならびにマイカー共済について説明を受けた。その後開催された春闘討論集会では、JR四国

ローガンのもと、当面の活動方針を真摯な討議を経て、満場一致で決定した。

冒頭、開催地を代表して大谷副会長（JR四国労組執行委員長）から連帯と歓迎の挨拶を行った。続いて主催者を代表して壇上に立ったJR連合の萩山会長は、「労働集約型のJR産業は離職の増加に苦んでいる。人財の確保、安心して意欲高く働くことのできる環境を造りあげ、魅力ある産業構築に向けJR産業で働く仲間をJR連合のもとに集結させ、健全な労働関係を通じ、社会的責任を果たすことが求められる」と決意を述べた。

議長には今井委員長（JR四国労組愛媛県協）を選出。議事では、執行部より2022年度の活動報告と2023年度の活動方針（案）を提案し、すべての議案が満場一致で採択された。

春闘勝利を目指して団結ガムバロー！

定期委員会終了後は「交運共済説明会」を実施。交運共済の本田専務理事から、2025年度4月より改定される総合共済の取扱いならびにマイカー共済について説明を受けた。その後開催された春闘討論集会では、JR四国

LINE 公式 アカウント

JR四国労組新聞
JR四国労組ニュース
配信情報、
HPの更新情報が届く